スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

新潟県 聖籠町

自 治 体 名 ： 新潟県聖籠町
担 当 課 名 ： 社会教育課
電 話 番 号 ： ０２５４-２７-２１２１

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	約38.57 ㎢
人口	13,999 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	440 人
部活動数	12 部活動
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	聖籠中学校の部活動在り方検討委員会
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	聖籠町立中学校の生徒を対象とした地域部活動推進事業 聖籠町部活動ガイドライン 上記策定済み

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

・人口減少等の地域全体について
　聖籠町は県内でも珍しく人口減少が少なく、現状では今後10年ほど児童生徒数も一定数見込まれる。

・地域移行の取組の現状
　令和２年９月に令和５年度以降部活動を地域の活動に移行する方針が示された後、聖籠町としての体制構築に向け、令和３年８月に検討委員会を設置した。「聖籠中学校の部活動の在り方検討委員会」という有識者を含む７人の検討委員で構成される検討委員会で令和３年度に２回、令和４年度に３回合
計５回の検討を重ねた。そして、５回の検討を経て、令和８年に「聖籠中学校の中学生の学校部活動の地域移行」を目指し、「提言」及び、「聖籠町部活動ガイドライン」を作成した。
　令和５年度、体制が整った１部活動（陸上競技）の地域移行を実施した。令和６年度には陸上競技に
加え２競技の地域移行を実施した。
　今年度の３競技については、計画通り進めている。しかし 次年度は全部活動を地域クラブに移行させていく年になる。指導者確保が大きな課題である。
　しかし、現段階において地域スポーツクラブの指導者リストが整っていないことが問題である。今後は、教職員の指導者配置を考えているところである。

・地域移行進める上での課題
　指導者の確保が一番の課題である。聖籠町としては、中学校教員以外の地元の人が指導してくれることが長く続いていくことだと考えている。
　しかし、町としては異動を伴う学校教職員ではない方に、指導をお願いしたいと考えている。しかし、多くの競技は学校教職員に頼らざるを得ない現状にあることが課題である。

聖籠中学校教職員による聞き取り　　令和7年度初地域スポーツクラブ　指導者予定希望表（右下表）

令和６年度初までに確定したクラブ活動

本来の職業	令和５年 地域の方	令和５年 教職員	令和６年 地域の方	令和６年 教職員
陸上競技	2	0	2	0
軟式野球	0	3	0	3
柔道	1	1	1	1

令和６年度新保が教職員に行った調査（教職員の希望）

本来の職業	R6. 5. 1 地域の方	R6. 5. 1 教職員	R6. 8. 23 地域の方	R6. 8. 23 教職員	R6. 10. 9 地域の方	R6. 10. 9 教職員
バスケットボール（男子）	2	0	2	0	2	0
バスケットボール（女子）	2	0	2	0	1	1
サッカー	1	1	1	1	0	1
バレーボール	1	1	1	1	1	1
ソフトテニス（男子）	2	0	2	0	1	0
ソフトテニス（女子）	2	0	2	0	1	0
卓球（男子）	1	1	1	1	1	1
卓球（女子）	1	1	1	1	1	1
剣道	2	0	1	0	2	0
吹奏楽	1	1	1	1	1	1
家庭科	0	0				
美術	0	0				

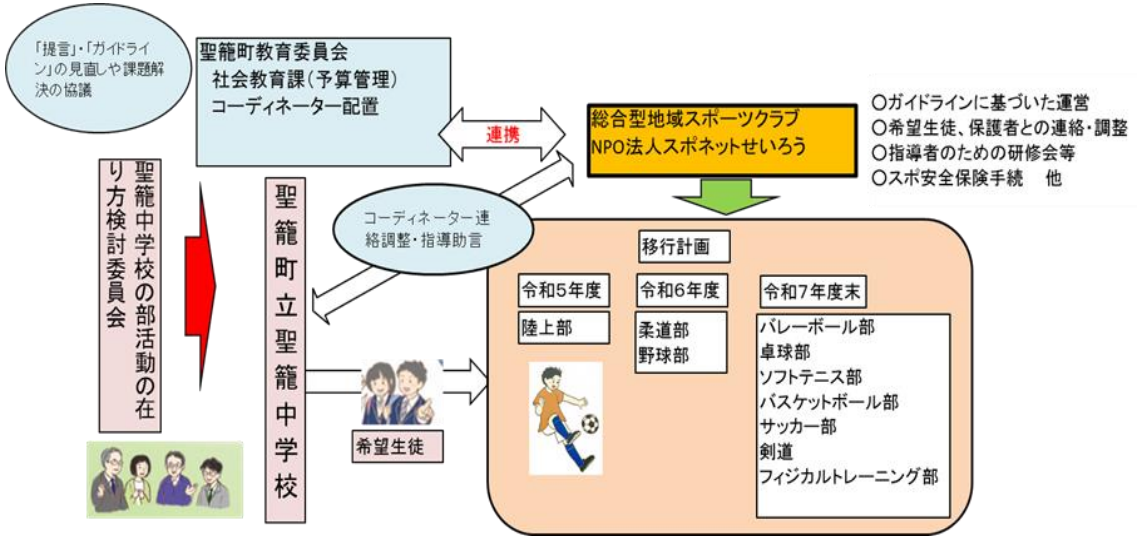
土日、祝日は活動をしない部活動　　調査日によって変化がある部活動
※本来は、スポネットせいろうが集計し、結果を示す。
※この資料については、新保独自が調査し教職員の思いのものである。
※この他に、JAPANサッカーカレッジ指導による「フィジカルトレーニング部」を創設予定である。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会（社会教育課）

県部活動改革検討委員会への参加

「聖籠中学校の部活動の在り方検討委員会」の開催

NPO法人スポネットせいろうとの連携

聖籠中学校部活動顧問、及び生徒・保護者への説明

事業全体の総括

◉NPO法人スポネットせいろう

運営主体・実施主体

指導者研修

地域クラブ活動の管理運営全般

年間の事業スケジュール

令和６年　４月１０日　指導者研修
令和６年　４月１７日　指導者研修
令和６年　４月２０日　聖籠中学校PTA総会で説明
令和６年　５月　１日　聖籠中学校職員会議で説明
令和６年　６月２６日　第９回聖籠中学校の部活動の在り方検討委員会
令和６年　７月１８日　社会教育課とスポネットせいろうの打ち合わせ
令和６年　８月　８日　聖籠中学校職員会議で説明
令和６年　８月２２日　町長への説明と今後の確認
令和６年　９月１０日　聖籠中学校職員会議で説明
令和６年１０月　９日　聖籠中学校職員会議で説明
令和６年１０月３０日　町長レクチャー
令和６年１１月２６日　第10回聖籠中学校の部活動の在り方検討委員会
令和６年１１月２８日　地域クラブWeb会議
令和７年　１月２０日　第11回聖籠中学校の部活動の在り方検討委員会
令和６年　４月２０日　聖籠中学校PTA総会で説明

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	3クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3クラブ（3部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	7人	全体の運営スタッフ数	7 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
Seed聖籠	スポネットせいろう	陸上競技	月 4 回／週 1 回（平均）	午前9時から正午	3年 7人 2年 11人 1年 16人	令和6年4月から令和7年3月まで	聖籠中学校グラウンド	2人	0人	スポーツ保険料800円	中体連は部活動 その他は地域クラブ
軟式野球	スポネットせいろう	軟式野球	月 4 回／週 1 回（平均）	午前9時から正午	3年 10人 2年 12人 1年 13人	令和6年4月から令和7年3月まで	聖籠中学校グラウンド	3 人	0 人	スポーツ保険料800円	中体連は部活動 その他は地域クラブ
柔道	スポネットせいろう	柔道	月 4 回／週 1 回（平均）	午前9時から正午	3年 7人 2年 4人 1年 3人	令和6年4月から令和7年3月まで	聖籠中学校武道場	2 人	0 人	スポーツ保険料800円	中体連は部活動 その他は地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- まだ完全移行していない。そのため、指導者を集めることが主導になっており、体験会やイベントなどを行うまでには至っていない。

2.実証内容と成果

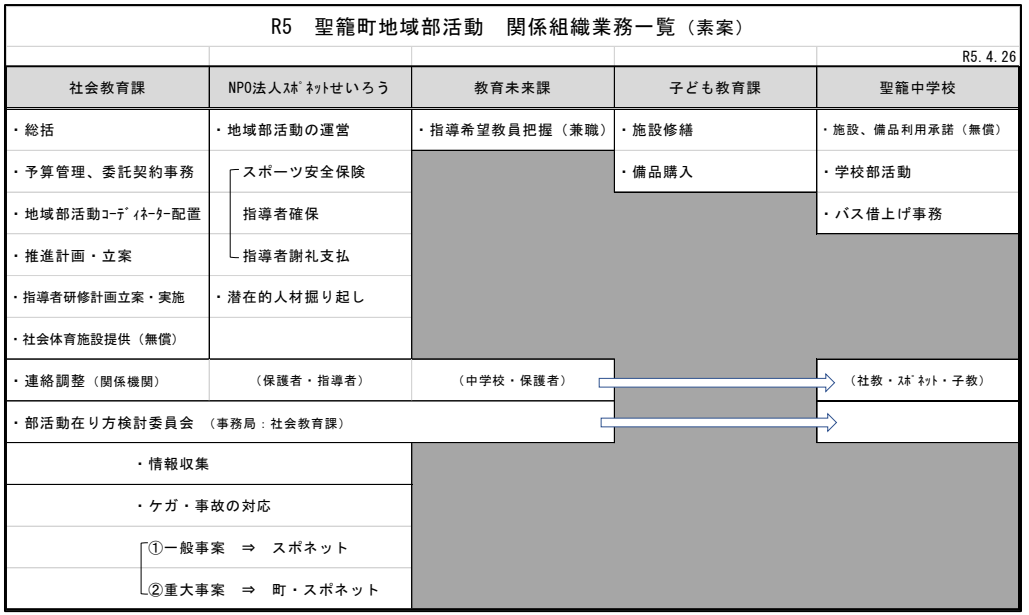
スポーツ庁

主な取組例

●聖籠町地域クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技、軟式野球、柔道
運営団体名	NPO法人スポネットせいろう
期間と日数	4月から3月目での土曜又は日曜、祝日 105日
指導者の主な属性	陸上競技 日本スポーツ協会陸上スポーツ指導員及 陸上競技経験者 軟式野球 日本スポーツ協会公認軟式野球コーチ ３；１人　コーチ１；２人（うち一人年度未取得予定） 柔道 公益財団法人全日本柔道連盟公認柔道指導者C指導員 公益財団法人全日本柔道連盟公認審判員Cライセンス 日本傳講道館柔道三段
活動場所	聖籠中学校、聖籠町多目的運動場
主な移動手段	自家用車、自転車、徒歩
１人あたりの参加会費等（年額）	0円
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●指導者

役割：競技により、2人または3人となっている。しかし、町では2人分の予算しか確保できずにいる。この場合は、二人目を一人として確保するようにしている。つまり、二人目の指導時間を足すと105時間になるようにその競技にはお願いしている。

複数人で役割分担をし、指導を行うこととしている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

聖籠町教育委員会にコーディネーターを配置し、NPO法人スポネットせいろうと聖籠中学校等関係団体と連絡調整・指導助言を行う。

昨年度1競技だったものを今年度は3競技に増やし拡充を図っている。

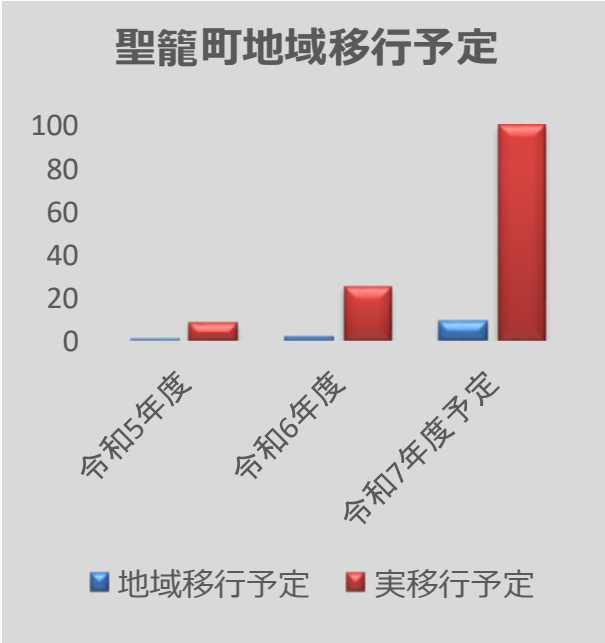
取組の成果

今年度実施競技を3競技に増やした。

年度当初には、研修業務を貸した。この研修を終えたのち、実際に指導業務に入るように研修を実施した。

実施2年目の陸上競技については、年度当初の計画を見直し、他の団体と交流する機会を多く持つようにしていた。

今年度実施の軟式野球と柔道については、計画にも続いた動きをしていた。ただ柔道については、部員が少ないことが根底にあるため他の学校への練習会や競技会に参加することが多くなっていた。



コーディネーターの具体的な動きの実績

・中学校の部活動指導者に集まってもらい、今年度3回地域移行について話をした。しかし、年度替わりの時期に人事異動があるため先生方も慎重に回答していた。

・PTA総会、新入生入学説明会の場で、保護者に対して学校部活動の地域移行について話をした。

今後の課題と対応方針

・来年度は、運動部活動で設置している部活動がすべて地域移行されることになっている。今現在でも2つの課題が示されている。

一つは指導者不足で、この段階でもすべての競技に指導者がいるということではない。もう一つは、活動場所である。特に屋外種目については指導者にお任せしているとこである。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

当町ではスポーツ関係の指導者発掘は、スポネットせいろうに委託している。

実際には、スポーツ団体を中心に指導者を集めている。しかし、小学生を対象とした指導はできるが、いざ中学生となると二の足を踏むスポーツ団体が多いのも事実である。

人材バンクの人数

39名（参考:新潟県）

人材バンクの年齢構成

10代	0名
20代	5名
30代	6名
40代	7名
50代	14名
60代以上	7名

登録者属性	種目	資格有無
陸上競技：聖籠町民・新発田市民	陸上競技	陸上競技：あり
軟式野球：学校教員	軟式野球	軟式野球：あり
柔道：新発田市民・学校教員	柔道	柔道：あり

取組の成果

・指導者講習会は、毎年開催している。専門的な視点が多く、大学の保健体育を学ぶ生徒にはよくできていると思う。

半面、自分が指導する競技指導者の立場からすると、学習する視点が多すぎて内容をまとめるのに困るという声がある。

・指導者の質の確保という視点では、今現在は問題なく進んでいるが、来年以降は全部の部外交できるかわからない状況である。また、量の確保についても将来的に受けてくれる人がいないクラブもあり、あらゆるところに話を聞きに行っているというのが現状である。しかし、なかなか厳しい現状がある。



柔道指導の様子

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

聖籠町は、新潟県保健体育課が作成した資料を研修教材として使っている。

科目は以下の通り

１地域スポーツの在り方について	２指導者としての在り方について
３コーチングとは	４スポーツ教育指導法
５身体の仕組みと動き	６体力とトレーニング
７スポーツ医学	８スポーツ心理学
９スポーツ栄養学	10スポーツインテグリティ

研修は４月の一番最初に都合を聞き行っている。

この研修の後、指導に入る。

指導者研修の参加実績

・開催日：　４月 10日、17日
・開催回数：　２日（10 回）
・参加人数：　５人

新潟県が作成した研修内容を、聖籠町の指導主事が開催し受講させた。

受講者の声

- 研修は静かに受講してもらった。
- 時間が長いため、後半になると「疲れる」という声も聞かれた。
- 専門的な「授業を受けていない」ということもあり、専門的であるという声も聞かれた。
- 中には、もっと競技に特化した研修にはならないのかという声もあった。このことは内容の良し悪しというよりは、指導に直接かかわる内容にしてほしいということである。

今後の課題と対応方針

- 予定では、令和7年度に聖籠中学校の全部活動が地域スポーツに移行する予定である。しかし、指導者の確保が停滞していることが課題である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

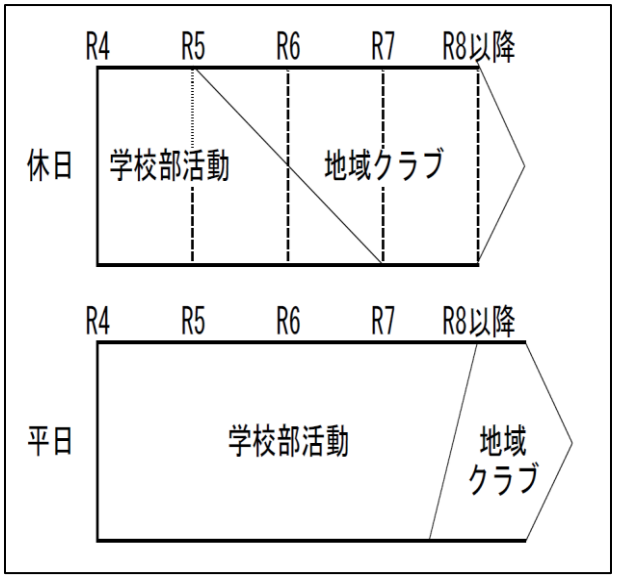
地域連携を活用し、指導者を確保する。

特に地域の大学と連携、指導者を確保する。

取組の成果

年度当初には近隣にある2大学に事業の趣旨を説明し、指導者を確保するように努める計画をした。しかし、中学校の教員らの中には自分が指導者として関わりたいという人も数名いた。このことを受け、今年度３回中学校での説明会を行った。その結果、予想以上にクラブ活動にかかわりたいという声もあった。しかし、教職員の人事異動もあり、年度内に指名をし来年度の実施確定までに入ったていない。

また、中学校の保護者の中には、クラブ化の動きを先取りしたような形（話を聞かないで動く）で町外のクラブに移ってしまった保護者もいる。このことが細かい問題を含んでおり、中学校の職員との摩擦にもなっている。



聖籠町の今後の予定

バス等の運行実績

・運行状況

運行しているのは、学校への登下校のみである。

地域クラブに所属し、活動のためのバスは運行していない。

今後の課題と対応方針

・部活動から地域クラブへのスムーズな移行

・指導者の確保

が進めば、連携が図れると考える。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

聖籠町は、他市町村からの受け入れはまだしていない。１町１中学校という条件から、部活動がなくなる中学生のために行うことを第一主義として行っている。
今年度は３つに部活動を地域に移行してやってきた。中学校の先生は異動があるので、地域から指導者を見つけることを第一に考えているが、なかなか見つからない実情がある。

各自治体の役割

社会教育課でこの事業をすすめている。
役割としては、国や県と公費の負担について行っている。その他、県の事業に対し回答したりしている。
町事業としては、段階的な部活動からクラブへの移行を目指している。
具体的には、中学校へ行って説明会を開いたり、保護者を対象に説明会を行ったりしている。

移動手段

活動する生徒は、各家庭の車で送迎してもらうものが殆どである。
春から初秋までは、どうにか自力で移動できる環境にはある。
しかし、冬場は家庭の送迎が殆どの状態である。

事務局運営の方法

全体：社会教育課の担当が受け持っている。
スポーツ系：スポネットせいろうが受け持っている。
文科系：社会教育課が受け持っている。

取組の成果

今年度取り組んだクラブは、積極的に取り組んでくれた。今年度は土日祝日の活動であった。軟式野球については、平日も移行してもできるという回答をもらった。予算編成との機会が合わず、平成８年度から平日移行に移していきたいと考えている。



今後の課題と対応方針

今後の課題は指導者の問題である。なかなか見つからず、指導者を探すことに苦労をしている。周辺市町村も同様のようである。できるだけ学校教職員には頼らないで、地域クラブが長く活動できるよう良い策を考えたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実①

取組事項

今年度開設種目
- ・陸上競技
- ・軟式野球
- ・柔道

参加者
- ・Seed聖籠（陸上競技）：34人
- ・軟式野球：35人
- ・柔　　道：14人

活動時間
- ・Seed聖籠：105時間
- ・軟式野球：105時間
- ・柔　　道：105時間

活動曜日
- ・土日祝日

活動の詳細

参加人数	83 人	指導者数	８ 人（内1人は8月まで、1人は9月から）
属性	学校職員4人、一般社会人4人		
具体的な内容	・技術的基礎練習 ・体力づくり基礎練習 ・練習試合 ・大会参加		
子供の声	● 普通に練習ができた。 ● 上位選手と下位選手に分け練習をした。（人数が多いため） ● 学校の練習と休みの日では先生が違うため、しばらくの間困惑した。 ● 学校の部活動と違う人もいたので少し戸惑った		
関係者の声	● 学校職員だけで指導体制を作れたので、練習会場を2つに分けて練習できた。 ● 学校の先生と連携を取りながら、クラブ経営ができた。 ● 学校部活動の先生と、あまり連絡を取り合うことがなかった。 ● 家庭からの持ち出し金が少なく良かった。		
運営経費	・指導経費　1,600円/1時間 ・保険料（生徒）　800円 （指導者）　1,850円		



2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実②

取組の成果

今年度当町は取組2年目となった。昨年度１取組だったので、合計３クラブとなった。

取組内容としては、町内中学校の部活動から地域クラブの移行が主な取組となる。

それぞれの部活動は年間計画を作成し、計画に基づいて指導している。指導している中で、試合や大会に出場し計画が部分変更になることはあった。生徒や保護者への連絡も早い段階で連絡が行われており、傘下に大きな問題はなかった。軟式野球部や柔道部は県大会を勝ち抜き北信越大会に出することができた。

今年度取り組んだクラブについては、指導者については困らずスムーズな運営につながっている。

※右図の部活動にフィジカルトレーニングクラブが加わる予定である

前提条件
○　学校が休みの日（週休日及び国民の祝日等）
○　年間105時間で実施する（学校が長期休業日の場合は調整による）

実施部活動

陸上競技	令和５年度より移行　→　地域指導者２人
バスケットボール（男）	令和７年度移行予定
バスケットボール（女）	令和７年度移行予定
サッカー	令和７年度移行予定
軟式野球	令和６年度より移行　→　学校部活指導者が指導者 学校教諭２人、学校用務員１人
バレーボール	令和７年度移行予定
ソフトテニス（男）	令和７年度移行予定
ソフトテニス（女）	令和７年度移行予定
卓球（男）	令和７年度移行予定
卓球（女）	令和７年度移行予定
柔道	令和６年度より移行　→　学校部活指導者が指導者 学校教諭１人、地域指導者１人
剣道 （吹奏楽	令和７年度移行予定 令和７年度移行予定）

今後の課題と対応方針

今年度は、クラブの運営はおおむね良好にできた。

今後は指導者がいないクラブが出てくるのではないかと考えられるため、保護者をクラブの代表として運営を任せざるを得ない部活動が出てくると考える。

ただ学校教諭や職員の中でも、指導に携わりたいという職員が出てくると考えられる。そうなると前年度の計画ではどうにもならず、新年度当初に考えを聞きすぐに始めなければならないと考える。とにかく地域的には、指導者の不足の問題は永久的に続くと考える。適任者の選任が難しい時期に入ってくるような地域である。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

当町内では、生徒の自己負担額として、保険料のみ徴収している。
国の負担や県の負担をもらい、指導者の保険料や指導経費を負担している。

地域クラブに係る経費

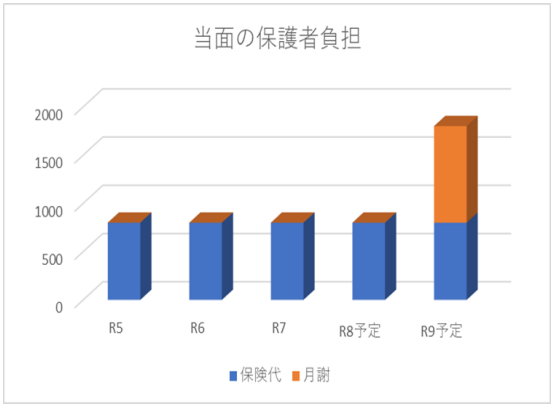
■イニシャルコストの分析

準備にかかる費用は全くなく0円である。
・地域クラブで使う道具類は、中学校で使う部活動の道具を使うことになっている。そのためイニシャルコストについては、今年度はない。

■ランニングコストの分析

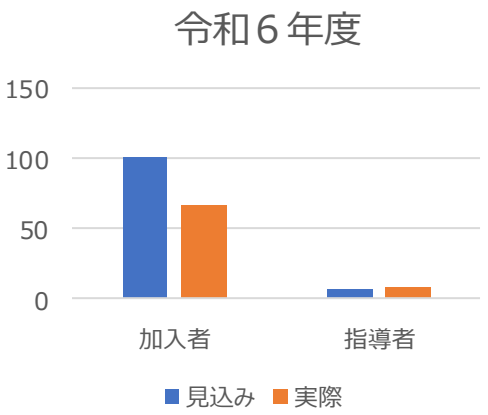
当町内では保険料の800円をいただいている。その他の経費については、積み立てではなく、その都度集金し大会や記録会に臨んでいる。

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算



令和７年度までは、受益者負担として８００円を負担してもらっている。令和８年度以降はこの金額に加えて、１０００円を負担してもらおうと考えている。ただ、人数によっても変わるが、当該年度の実情に応じ金額が決まってくる。

収支バランス



保険の加入者については、年度当初の予定よりも減っての登録となった。これは、町の社会教育に小さいころから加入しているからだった。また、部活動から地域クラブに移行する時に加入しない生徒もいたことが原因であると考える。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

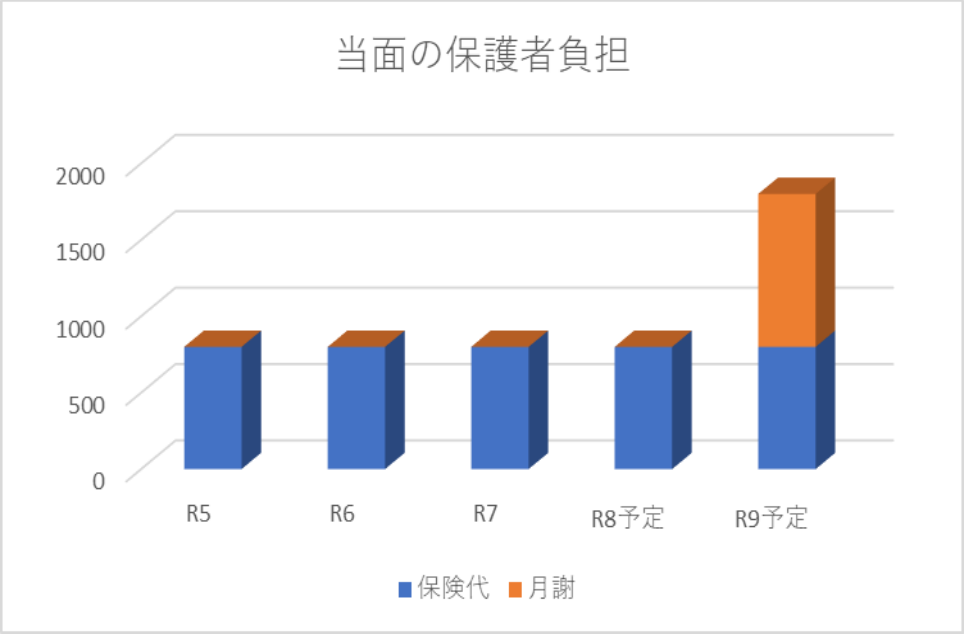
●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

当町では、加入生徒から傷害保険のお金をいただき実施している。その他の費用はかからず活動できた。

今年度は実施２年目の年となり、指導者も増えた。その中で、大きなけがもなく無事終わることができた。当町では活動にかかわり、各家庭からは傷害保険料金しかもらわず活動を進めてきた。このことは、１町１中学校という設置の状況に大きくかかわっていると考える。複数校あれば、このような状態は、少し変わってくるものと思われる。

右のグラフでは、令和９年度から月謝を設定し、定額をいただく予定にしている。次年中には金額等をはっきりさせていきたいと考えている。



今後の課題と対応方針

国からの補助金をいただける間は、補助金申請をしていくことで町長との話し合いで決まった。その後は、町の財政に負担依頼をするとともに、加入者からの「月謝」をもらうことになると考えている。このことを小学校の穂が社などにお願いをし、意見を聞き作成していかなければならない。次年度にはこのメンバーを決定し、話し合いの場を設定し、ある程度の見通しをもっていかなければならない。それを町のスタンスとして小中学校の保護者に知らせていくことになると考える。それと、他市町村の情勢を把握し、会議などの場で保護者に知らせていくことも必要になってくると考える。今は祝・休日の移行について考えているが、今後は平日の移行から完全実施に移行することを考えていかなければならない。

2.実証内容と成果

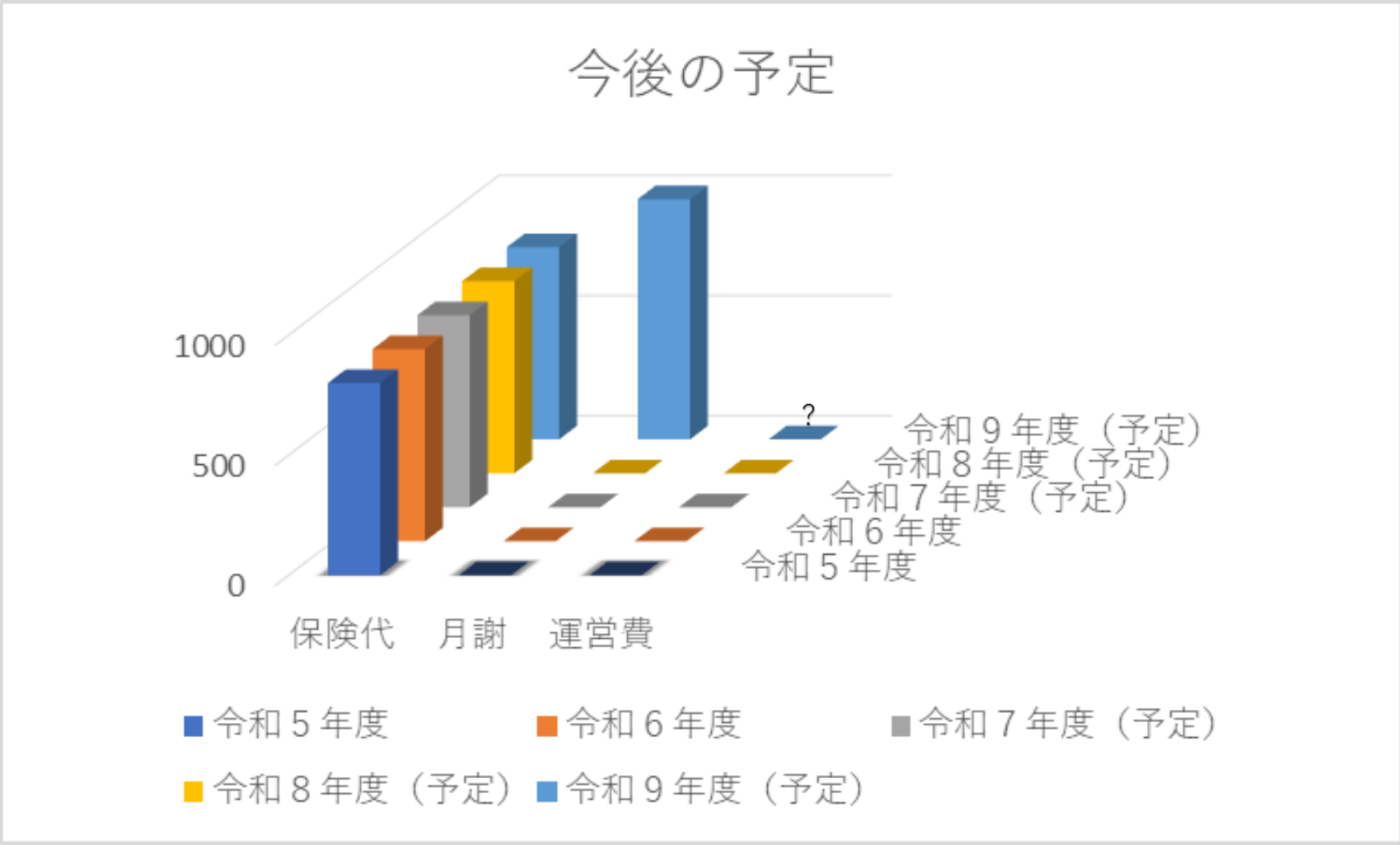
ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等③

資料



2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

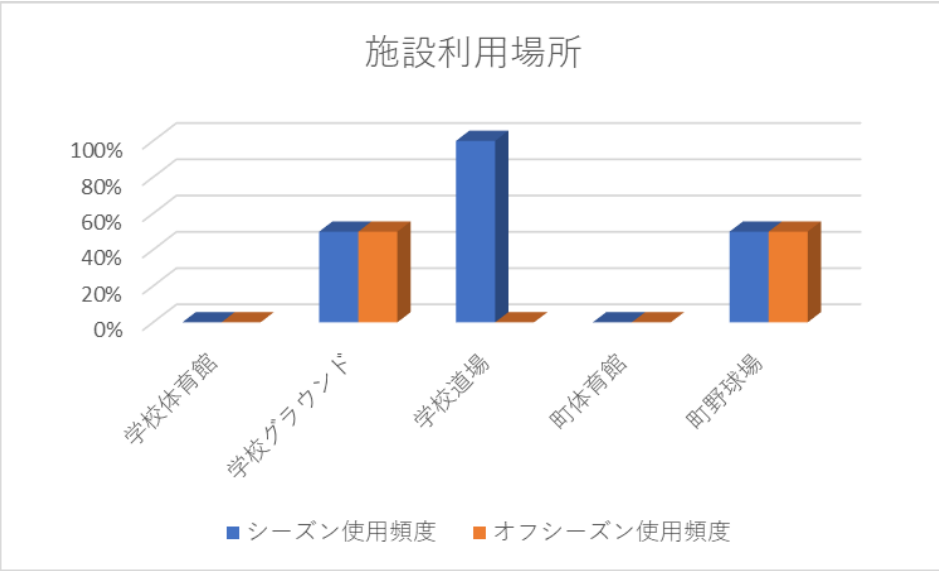
今年度３競技が地域への移行を行い、活動した。すべての競技が学校を使い活動した。陸上競技においては、基本のトレーニングを主な活動として行った。軟式野球部は、上級者は練習試合や練習を聖籠球場などで行い、初心者クラスは学校のグラウンドで練習することができた。柔道は、中学校にある柔道場で活動を行った。

取組の成果

取組を終えての反省は、大きなけががなかったということが一番である。また、生徒にとっては普段生活している学校が練習場所であるということは安心して利用できる場所だったと思う。

さらに、用具の収納や設置場所も学校のものを借用出る状況で実施しているため、特に問題はなかった。

また、実施クラブが３競技だったため大きな問題が起きなかったとも考えられる。そのことを考えると、次年度全部の競技が移行する予定になっているので、こまごました問題は今後起こってくるのではと思う。年度当初の話し合いを設置し、混乱しないようにしていきたい。



今後の課題と対応方針

次年度は中学校のすべての部活動が、地域移行する。準備段階での今の問題は、指導者がいるのかということである。ほとんどのクラブが、教員が指導したいという思いを把握している。しかし、年度末年度初めの人事異動があるため、簡単には決められない事情もある。町としては、このような人事異動を考えず進めたいと考えているが、地域の順民で指導者として名乗りを上げる人は今のところいない。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ク：その他の取組

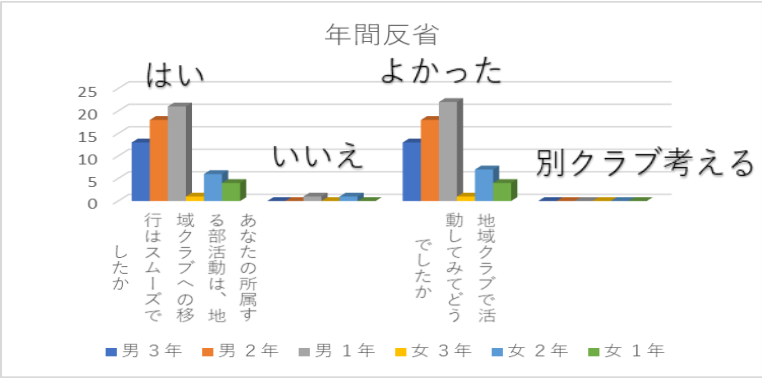
取組事項

今年度３競技を実施した。地域住民だけで指導している競技は、陸上競技だけだった。その他２競技は学校の教師がかかわって運営をしていた。陸上競技は昨年度と今年の２か年の実績がある。二人で指導してきたが、そのうちの一人が今年度途中に県外に異動となり、すぐに新しい指導者が見つかり、今年度後半も二人で指導することができた。

取組の成果

陸上競技のクラブは固有名称を「Seed」として活動している。その他の２競技には教職員が配置されている。年間を通し指導していくことは、自分が指導者から教わる立場ではあったが、指導者としてどのようにしていったらいいのかを今現在学んでいると思う。

人にものを教えるということは、特別な環境であることを実感し、成長途中にある生徒により良い成果を上げてほしい。



指導者の属性や配置の工夫

・指導者の属性

指導者A　公務員

指導者B　会社員（途中採用）

指導者C　会社員（途中退職）

・配置の工夫

指導者の間で、トラックとフィールドに分かれて行っているようだ。このことについては、事務局では介入しないようにしている。

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

連携をとることは、一番最初に研修で話をしている。しかし、陸上競技に関しては、学校教諭との間で連絡を取ることがないように聞いている。意地を張っているというよりは、遠慮していることが大きいように思う。また、電話番号などについては、個人の番号は伝えていないことも大きい要素かもしれない。

生徒の指導に影響が出ないように、こちらとしても「指導者の声」を聞けるようにしたい。

今後の課題と対応方針

先にも記述したが、次年度は全競技が対象になる。これまで以上の様々なトラブルが発生することが想定される。一つ一つを解決すべく、聞き取りをきちんとして対応していきたいと考える。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　例）イ：指導者の質の保障・量の確保　／　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項（イ）

軟式野球部

今年度一年を通して、「基本技能の取得と、それを活かした実戦練習」を掲げ練習した。

取組の成果（イ）

「投げる」「捕る」「打つ」「走る」といった基本技能すべてにおいて向上した様子が見られ、それを実践で発揮し、選手が自分自身の成長として実感することができた。その結果、意欲の向上にもつながった。



取組事項（ウ）

柔道部

競技力向上を目指して、対外試合や強化練習に多く参加した。県内の高校への出げいこや県の強化練習会、県外遠征などを多く取り入れた。

取組の成果（ウ）

中体連の大会では、団体、個人と全国大会に出場することができた。その結果、後輩も意識が高くなり、部活動に対してのモチベーションが上がるようになった。



今後の課題と対応方針

軟式野球

活動場所の確保と今後の運営。保護者と話をしながら理解を得て、進めていきたい。

柔道

部員の確保、特に中学校から始める生徒の勧誘に力を入れていきたい。あわせて女子選手の獲得にも力を入れていきたい。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度は、3競技を実施した。そのうち２競技は、今年度開始競技である。この２競技については、年度当初に研修を実施し始めた。

研修日時も合わせたかったが、講師によって違う日程で行った競技もあった。しかし、早期段階で全員終わらせることができた。

競技指導者について、陸上競技において年度の途中で交代するということがあった。これは、前任者が県外へ移動するという事情からだった。後任者もすぐに見つかり事業そのものには支障は出なかった。

柔道については、年間の活動回数を大きく上回っており、回数調整に手間がかかった。合わせて活動に対する手数料計算にも、時間がかかった。

次年度の計画において、中学校の全運動部活動をスポーツクラブ化へ移行する計画であるが、町の次年度予算編成の段階で、これまでの計画通り進められるかどうかぎりぎりまで調整が続いた。結果としては、計画通り実施する予定になった。

●成果の評価

全般的には、計画通り実施することができた。

今年度終了時点で、次年度の予算編成の段階が一番苦労した。町の予算が次年度減額され、全課においてシーリングがかかる状況であった。スポーツクラブ化を推進するこの事業については、最終段階まで減額の方向で会議が開催されるような事態であった。結果として、次年度予定通りスポーツにおいては実施する結果が出た。

柔道については、説明会で回数制限について説明しておいた。しかし、出てきている実施実績から指導を入れた。話をいい加減にして聞いているのだなと改めて感じた。次年度は、このようなことがないようにしていきたい。

●今後に向けて

「成果の評価」にも記述したが、次年度に関することでぎりぎりまでもめた。お金の使い方に関することではないが、より計画的に実施してくことで信頼につなげていくことになると考える。

また、学校職員で地域クラブに携わりたいと考えている職員がいる。このことについては、次年度早々に説明をし、実施につなげていきたいと考える。

将来的には、自立クラブの立ち上げまで考えてはいる。しかし、学校の教職員にお願いしていくとなればそのことも考え、保護者に伝えていかなければならないと考えている。

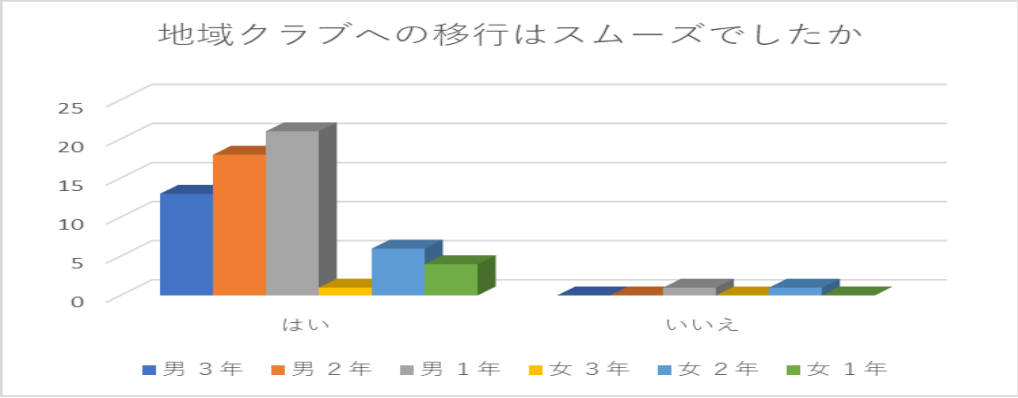
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

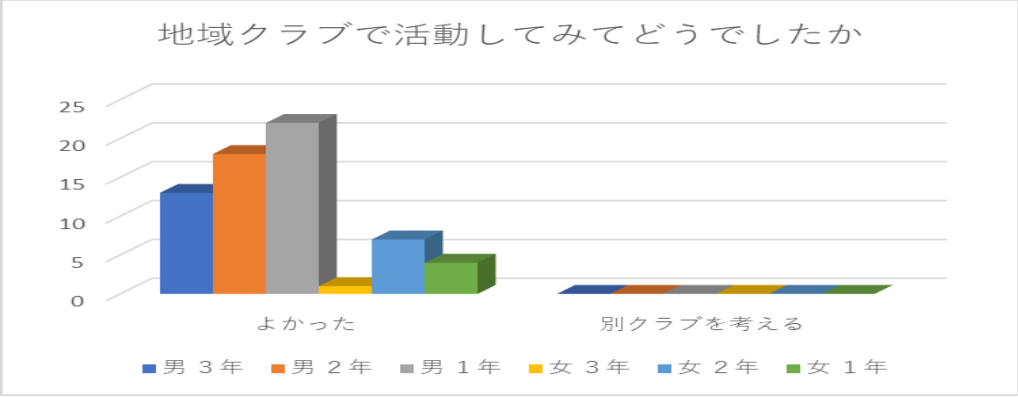
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

Q.地域クラブへの移行はスムーズでしたか?



Q.地域クラブで活動してみてどうでしたか?



●参加者の声

中学２年生（女子）

自主練習ができてうれしい。

中学１年生（男子）

楽しく活動ができています。

指導者（軟式野球）

活動場所の確保と今後の運営。保護者と話をしながら理解を得て、進めていきたい。

指導者（柔道）

部員の確保、特に中学校から始める生徒の勧誘に力を入れていきたい。あわせて女子選手の獲得にも力を入れていきたい

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

アンケート結果・広報資料

PTA総会で配布した資料

令和６年度　聖籠中学校ＰＴＡ総会説明資料

令和６年４月２０日

聖籠町教育委員会
（社会教育課）

休日の学校部活動について

目　的

令和２年９月に文部科学省は、「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」を示し、令和５年度以降、休日の学校部活動を地域移行に向けて試行していくこととしました。このことを受け、町としては今後スムーズな移行が図れるように、課題や対策などを事前に把握するために試行事業として取り組みます。

今年度の取り組み

○競技種目：陸上競技部(R5～)軟式野球部(R6～)柔道部(R6～)について試行します。

地域部活動について

○加入について

- 参加を希望する聖籠中学校の生徒であれば、だれでも参加できます。所属部活動と違っていても構いません。
- 学校教育活動ではないので、保険に加入していただくなど新たな手続きが必要になります。

○費用について

- 参加者は、公益財団法人スポーツ安全協会のスポーツ安全保険の傷害保険に新規に加入していただきます。
- 事故やけが等による補償は、加入保険の範囲内となります。
  （ただし、運営側に故意又は重過失のある場合を除きます。）
- 保険料につきましては、保護者負担になります。保険料は年額８００円程度になります。
- その他、地域部活動として大会等に参加する場合の参加料などは、保護者の負担になります。
- 令和６年度は試行事業とすることから、指導者への謝礼等は町の負担としますが、試行終了後は保護者負担等も含め改めてお示しすることとなります。

今後の動き

現時点では詳細について国の動きが明確に示されていないため、今後の事業内容等は国からの通知等を含め、変更が想定されますのでご了解願います。

【保護者への参加啓発チラシ】

聖籠町　令和８年度以降の平日　　地域スポーツクラブ調査

聖籠町　**令和８年度以降の平日**　地域スポーツクラブ**調査**　**（集計結果）**

聖籠町社会教育課：新保

○令和8年度以降の**平日の活動**について、移行の考えをお聞かせください。
（令和６年度末、７年度末で**異動（又は退職）しない方の集計結果**）

回答欄

1　有効回答者の部活動区名

女子バスケットボール	
サッカー	
軟式野球	
ソフトテニス（男子）	
ソフトテニス（女子）	
卓球（男子）	
卓球（女子）	
柔道	
剣道	
吹奏楽	
美術	部

2　平日の活動についてお聞きします。（複数回答有）

a	できるかどうかわからない。	4
b	週１日くらい。	0
c	週２日くらい。	2
d	週３日くらい。	0
e	週４日くらい。	7
f	不定期。	0
g	その他（上記にはない）	0

3　活動の場所（複数回答有）

a	聖籠中学校。	12
b	聖籠町町民会館。	3
c	空いている状況により決める。町外も有り。	0
d	空いている状況により決める。町外は無し。	0
e	今の段階では、決められない。	1
f	その他（上記にはない）	0

4　活動の時間（複数回答有）

a	やらない。	4
b	学校の状況が許せば、放課後に学校で活動。	8
c	一旦学校を下校させ、学校以外で活動。	2
d	指導者の勤務あり、１９時くらいから活動。	0
e	活動場所により、開始時刻は変わる。	0
f	その他（上記にはない）	0

【職員アンケート】

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【陸上競技クラブ　冬期　屋内施設での練習風景】



柔道クラブの練習風景



軟式野球クラブの練習



【柔道クラブの練習風景】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

近隣市町村では、すでに地域クラブ活動を開始している状況であった。聖籠町でも推進するために、事務局内で検討会議を開始した。外部者による検討委員会を設置することが課題であった。先行実施している胎内市から情報提供をしてもらい、見通しをもつことができた。

4月に教職員、10月には生徒・保護者アンケートを実施した。アンケートからは、メディアでは取り上げられてはいたものの、自分事として捉え切れていなかった。
聖籠町の広報の月例版ではなく、号外としてお知らせすることで意識化を図る取り組みとした。

10月から陸上競技の活動を開始した。モラルやハラスメントの研修を課題とした。技術指導については、指導者に一任したが。研修については新潟県が作成した研修資料を活用した。モラルやハラスメント関係については、コーディネーターの経験を生かした内容を盛り込んだ。

令和３年

教育委員会事務局内検討開始 ▶ **協議会委員の選定・協議会の設置** ▶

令和４年

学校現場との調整 ▶ **生徒、保護者への説明** ▶

令和５年

地域クラブ活動の開始 ▶

令和６年

地域クラブ活動の拡大

「聖籠中学校の部活動の在り方検討委員会」を設置した。４月～6月で委員を選任し、9月に第1回の「聖籠中学校の部活動の在り方検討委員会」を開催した。地域移行するための提言を作成することを課題とした。中学校の現有する部活動をそのまま地域移行することなどを念頭に会議を重ねた。

令和5年度から地域移行をする陸上競技部の保護者、生徒を対象にした説明を11月に行った次年度から始まるということで、丁寧な説明にするか、ポイントを絞った説明にするかを保護者と生徒で違わせることを課題とした。

陸上競技、軟式野球、柔道の３競技開設。次年度は聖籠中学校の運動部のすべてと吹奏楽部が、祝休日の活動をクラブとして実施する予定。しかし、指導者が見つからない種目があり、その場合は部活動で行う予定。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

聖籠町　部活動地域移行スケジュール

担当　年度	2021年度（R3）	2022年度（R4）	2023年度（R5）	2024年度（R6）	2025年度（R7）	R8年度
教育未来課	・総括、予算管理、地域移行の方針策定 ・教職員、生徒、保護者アンケートの実施 ・検討委員会の設置、開催		・教職員の兼職兼業について情報収集と許可事務			休日の学校部活動を地域に移行
子ども教育課	・施設修繕　・備品購入					
社会教育課	・検討委員会への参加		・総括　・予算管理　・委託契約事務　・推進計画立案 ・地域クラブコーディネーターの配置 ・聖籠町社会教育施設管理、貸出　・検討委員会の設置、開催			
NPO法人スポネットせいろう			・地域スポーツクラブ活動の運営			
		・潜在的人材掘り起し（競技指導者）				
聖籠中学校	・生徒への説明　・教職員への説明　・地域クラブ活動への移行　・教職員への意識調査（兼職兼業）					
			・陸上競技部移行			
				・軟式野球部・柔道部移行		
					・その他の部移行	